



地域を育み、大陸をつなぐ



創立の原点に回帰しよう

ガバナー月信4月 しらこぼと10号



越谷市元荒川サイクリングロード

写真提供：染谷宗一（越谷南RC）

東日本大震災の被災者の皆様に
つつしんでお見舞い申し上げます。

（ガバナー 井橋吉一）

4月はロータリーの雑誌月間です

日本ではロータリーの雑誌（『ロータリーの友』など）
で会員の認識を深め、それによってロータリーの
情報の普及を図ることが目的です。

“今から、ここから!!”

会員増強についての、

ミーティングや会議の時間を作ろう。

自分のグループ、自分のクラブ、自分の手で

目標 368 増員 166 残 202

会員増強維持部門委員長 梶間順子（浦和中RC）

【第11グループ紹介】



川口駅前

産業文化都市・川口。鳩ヶ谷との再合併を間近に、
両市民が一体となって「郷土愛」を育み、更に住み
よいまちにつくりあげるための原動力としたい。

会員増強目標29頑張ろう

ガバナー補佐：江口正史（川口南RC）

会員増強応援団：牧内 操PG（鳩ヶ谷RC）

仙崎昭信PG（川口・鳩ヶ谷武南RC）

田村亮夫PG（川口モーニングRC）

川口・鳩ヶ谷・川口東・川口鳩ヶ谷武南

川口モーニング・川口南・鳩ヶ谷シティ

（紹介グループ 順不同）



例会の充実を

ガバナー 井橋 吉一

毎週1回開催される例会は私たちロータリアンにとって全てのロータリー活動の中で多くの時間を占めており、多くのロータリアンと週に1度顔を合わせることが出来る楽しいひと時です。そして例会はロータリーの基本活動です。ロータリーの目的にかなった例会を持つための奉仕を総括したものです。例会運営に関連する担当委員、プログラム委員、例会運営委員、出席委員、スマイル委員等は例会の大切さを認識して頂きたい。先輩方が例会は「童心に帰る」、「人生道場」等多くの言葉をのこされて、例会の大切を物語っております。

開会点鐘で始まり閉会点鐘で終わる1時間の途中で、セレモニーは秩序を持って厳かに規律正しい進行によって会場のロータリアンの気持ち

が一つになるような環境づくりが良いとおもいます。会長挨拶はロータリーや社会について話すと思いますが、常にクラブ会員に対する心づかいを持った挨拶が必要です。

そして例会プログラムは会長の基本方針に沿った年間プログラムを構成するべきです。その内容としてロータリーに関するプログラム、地域社会に関するプログラム、会員同志が認識を深めるプログラム、職業奉仕に関するプログラムなどを包含した年間プログラム構成により例会が充実するでしょう。

例会の充実によりクラブは活性化して、そこから最良の奉仕活動が生まれ、会員増強が進み会員維持も実現できます。よって効果的なロータリー・クラブの誕生です。

会員増強 “今から、ここから!!” カウントダウン

	ガバナー補佐	目標	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	累計	目標まであと
第1グループ	佐伯 鋼兵(浦和南)	23	4	3	1	1	0	0	0	1	10	13
第2グループ	篠原 唯史(浦和北東)	23	8	1	1	2	2	2	1	0	17	6
第3グループ	野原 哲夫(さいたま樺)	37	10	2	3	3	1	3	0	3	25	12
第4グループ	小野寺 芳彦(大宮北東)	37	4	0	2	2	0	6	2	6	22	15
第5グループ	小畑 正勝(鴻巣水曜)	34	4	1	2	2	0	1	2	0	12	22
第6グループ	大宮 英男(春日部南)	29	4	1	3	0	1	0	0	0	9	20
第7グループ	石井 明(幸手中央)	27	1	2	1	2	1	0	0	2	9	18
第8グループ	神谷 治善(越谷南)	38	6	4	1	1	2	2	2	3	21	17
第9グループ	牛山 信康(草加)	35	3	3	1	1	1	0	1	0	10	25
第10グループ	小島 朗(松伏)	25	2	1	0	2	0	0	0	0	5	20
第11グループ	江口 正史(川口南)	29	2	2	5	0	0	0	1	0	10	19
第12グループ	遊馬 幸義(蔵)	31	4	2	0	3	0	1	2	4	16	15
合 計		368	52	22	20	19	8	15	11	19	166	202

IM 報告

「第11グループの新しい試み 楽芸会」

第11グループガバナー補佐 江口 正史（川口南RC）

2011年2月18日（金）、キュボラ・フレンジアに於て井橋ガバナー、岡村川口市長、並びに11、12グループのバスターガバナー、バスターガバナー補佐の皆様を御来賓としてお迎えし、和やかで楽しい雰囲気の内に開催されました。

ロータリアンが出演者となる「楽芸会」という初めての企画であり、各クラブのイベントは三味線小唄、フラダンス、なぞかけリレートーク、フラメンコ、振込め詐欺防止寸劇、スコップ三味線、親父バンドと会場を巻き込んで喝采を浴びながらの歌唱、舞踊、演奏、演技の多芸、多彩な芸能を参加者が堪能し、グループの一体感が一層醸成されたと思います。

メインイベントのヴォーカルグループ「サーカス」・叶高トーク&ライブは耳と目と心が誘い込まれる、素晴らしい歌唱力が皆さんを魅了しました。

懇親会では叶高さんのサービス歌唱でIMの余韻に漬りながらの賑やかな交流会となりました。この試みへの皆様の御協力と参加に心から感謝と御礼を申し上げます。



江口G補佐



井橋G



岡村市長



伊藤実行委員長



鳩ヶ谷シティRC



川口・鳩ヶ谷武南RC



川口RC



鳩ヶ谷RC



川口モーニングRC



川口東RC



川口南RC



叶 高

IM 報告

テーマ『ロータリーは素晴らしい』

第9グループガバナー補佐 牛山 信康（草加RC）

2011年2月18日（金）、草加アコスホールに於いて井橋ガバナーをはじめ多くのご来賓出席のもと盛大に開催することが出来ました。

第一部は式典です。来賓の御挨拶、ロータリー財団へ寄付金目録贈呈、次年度ガバナー補佐紹介がありました。

第二部は元航空幕僚長の田母神俊雄氏を講師に迎え記念講演を行いました。講演テーマは「目覚めよ日本人、日本の未来を考えよう」です。昨年の国境や防衛に関する事件が多発し関心が高い時期ゆえに一般市民、諸団体に呼び掛けたところ国防を危惧する人々で会場は満席になりました。平和ボケした現代日本人を覚醒するに充分足りうる、聴講者が得心したあっという間の80分でした。田母神氏に対し日本の保守オピニオンリーダーとして健闘して欲しいという声が、会場内参加者から沢山挙がりました。市民の皆様にもロータリークラブの存在を広報する絶好の機会となる事が出来ました。

第三部は懇親会で、新入会員の紹介、フラダンスのアトラクション、次年度会長紹介。とにかく和やかな文字通り“ロータリーは素晴らしい”交流の一時になりました。



IM 報告**IMのテーマ【和(わ) 輪(わ) 話(わ)】**

第12グループガバナー補佐 遊馬 幸義 (蕨RC)

2011年2月19日(土)川口リリアに於きまして、諸先輩のロータリアン、多数の仲間のロータリアンの参加をいただき、盛大に催されました。

簡素で内容のある実り多いIMを目指し、開会の点鐘から閉会の挨拶まで全部で2時間30分と凝縮致しました。講演は日本総研の兼為勇次郎氏による「日本経済の動向と経営」と題して行われ、懇親会はコロンビアの京極加津恵さん他による民謡と三味線と踊りで会場を盛り上げていただきました。最初から皆様には着席をしていただき、途中で帰られる方も少なかった様に思えました。懇親会も移動することなく、ゆっくりとIMを楽しんでいただけたと思います。

IMを支えていただいた、すべての皆様に感謝致します。



米山記念奨学生 終了式

米山記念奨学部門委員長 邨田 茂



奨学生から恒例のYシャツへの寄せ書き

9月に終了した陸子俊さんと李美善さんを迎え26名の終了式を、3月6日に大宮ラフォーレ清水園で行い終了生全員が参加し指導教員、地区役員、カウンセラー他140名の方々が、忙しい中お集まり頂きました。米山委員会として感謝の気持ちでいっぱいです。

日本に来ている留学生は、日本の物価の高いところで生活と学業が大変で、日本人の友達もできず嫌なイメージを持って帰国する人がいるそうです。

しかし米山の奨学生は、奨学金の支援はもとより、世話クラブ・カウンセラーの人たちと巡り合い、日本の文化、習慣、又一番大切な日本人の心を学んだと、私はそう思っております。

米山終了生はこの後、就職する人、国に帰る人、まだ学校に残る人いろいろおりますが、米山の奨学生になった事を誇りに思い、がんばっていてくれると思います。

又、世話クラブ・カウンセラーの皆さん、大変ありがとうございました。

皆さんの、暖かい気持ちによって無事に、学生さんたちはこの日を迎える事が出来ました。

本当にありがとうございました。

皆様方の尽力により、終了式が挙行されましたことに感謝いたします。

終了生の皆さんおめでとうございました。今後の活躍に期待します。

感謝の言葉



皆様こんにちは、浦和中ロータリクラブでお世話になっているヌリジャマリと申します。

米山奨学生に選ばれて2年になりました。ロータリアンの皆様のご支援のおかげで無事に卒業することができましたことに嬉しく思っております。

この2年間、ロータリの行事や奉仕活動に参加させていただき、ロータリの理念をもっと理解することができました。また、色々な分野で様々な職業をもっている人生経験



の深い、素晴らしいロータリアンの方々と交流することができたおかげで、日本の文化、習慣などに深く触れることができることと共に充実した日々を送ってきました。心から感謝しております。

この2年という長い間、世話クラブ浦和中ロータリクラブの皆様大変お世話になりました。また世話クラブの皆さんもみんな親切で面白い方でした。また、カウンセラーの小嶋さんが私の宗教的なことをとても気を使ってくれて、本当に感謝しています。皆様の卓話やクラブの報告などのお話を聞きまして、大変勉強になりました。

そして、クラブの皆様と悩みことや嬉しいことを気楽にお話することができました。また、小谷野会員が私の為にお茶会を作ってください、誰でも簡単に経験できない茶道を経験させていただきました。日本の民族衣装浴衣を作ってくれました。

クラブの皆様と深く交流することができたことは、カウンセラーの小嶋さんのおかげだと思います。これは、私も社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする世界平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。

米山財団を始め、経済的に援助してくださった方々との出会いが、私の人生をまたよい方向に導いてくださいました。日本で2年間、留学をする機会を得ることができました。日本の様々な場所を訪ね、非常に素敵な時間を過ごしております。将来日本とウイグルを結ぶ架け橋となることを約束したいと思っています。



国際ロータリー第2770地区 2013-14年度

渡 邊 和 良 (浦和北) ガバナー・ノミニー決定



渡 邊 和 良 (ワタナベ カズヨシ)

1945年1月21日生

自宅住所：さいたま市中央区下落合1075番地

自宅電話：048-833-3570

勤 務 先：株式会社渡辺商会

職業分類：石油製品

学 歴

1969年6月 ウィットティア大学経営学部卒業

職 歴

1970年4月 株式会社日立製作所本社入社

1982年6月 株式会社渡辺商会入社

現在に至る

ロータリー歴

1991年8月7日浦和北RC入会

1993～96 地区青少年交換委員会委員

1996～97 地区青少年交換委員会委員長

1997～98 地区研究グループ交換委員会委員 (GSE)

2002～03 地区国際奉仕部門委員長

2004～05 地区世界社会奉仕委員長

2008～09 浦和北RC会長



「インドNIDに参加して」

R財団 職業研修チーム (VTT) 小委員会 泉谷 聡 (浦和RC)



NID、聞きなれない言葉です。

National (Polio) Immunization Day 全国 (ポリオ) ワクチン一斉投与日の頭文字からなります。

ポリオ撲滅は、ロータリーの最優先課題で、そのゴールもそう遠くないことは周知の通りです。しかし達成までの「ファイナル・インチ」を残す感染国が、まだいくつか残存していることもご案内の通りです。

その1国、インド全土で、去る2月27日にポリオワクチン一斉投与 (NID) が行われました。2830地区 (青森) のPDG関場慶博医師が、日本のロータリアンに参加を呼びかけ、当地区財団部門にも案内が届きました。

職業研修チーム (VTT) 小委員会は、2011—12年 (三國年度)、南インドのパイロット地区 RID3000 (タミールナドゥー州) と交換事業を行うことを予定しており、かねてより調査のためインド訪問を計画していました。そこで、インドNID参加とVTT現地調査の2目的を同時遂行すべく、配島委員長 (大宮シティー)、真野次年度委員長 (春日部西) と筆者の3名で急遽渡印することになりました。

NIDにおいては、ワクチン投与の現地体験リポート (配島)、VTTにおいては、相手国における「未来の夢計画6重点項目」に該当するニーズ調査 (真野)、そして共同研究課題として、ロータリーによるフェアートレードの支援 (筆者) の3項目をそれぞれが担当しました。筆者は、貿易業を営んでおり、インドからもインテリア用繊維製品を多数輸入しています。小さな現地法人事務所もあります。年に2度は訪れていることから、今回コーディネート役を手伝わせていただきました。



快晴の朝8時半、日本各地区からの参加者19名に我ら3人を加えた一団は、デリー中心部から車で約30分、低所得者層が密集して生活するマディプールという街にあるポリオセンターに移動しました。そこで3～5名の小グループに分かれ、現地の協力者やロータリアンとともに、軽四輪カーゴに分乗してさらに街中へと移動し投与ブースに到着しました。ブースは1坪ほどのスペースに口ハ台と机・椅子を置いただけの屋台のようなところ。前を牛が排泄しながら歩き回り、蠅が舞い、子供たちはポリ容器で水汲みをしています。衛生状態を一見して、ポリオ根絶にはワクチンの早期投与が不可欠とすぐ理解できました。早速ワクチンを口径投与します。2滴を小さな口に落とすのですが、泣く子、怖がって噤んだ口を固く閉じたま首を振る子にも投与します。靱島さんは、その男前を見て泣きだした子が空けた口に素早く点滴するという離れ技も開発。真野さんは、空港の免税店で買い込んだキャンディーをご褒美に勧誘。辻々から親や兄姉に付き添われてやって来る幼子たちに交じって、サリーをまとい、ベールで自身と生後数か月の赤ちゃんを一緒に包んで入口をくぐる母親もいます。投与を終えた幼児の左手小指



の爪には、特殊なインクペンで茶色のマークを着色します。50ml瓶に入った生ワクチンは鮮度が落ち有効性が落ちないようにクーラーボックスに保管され、投与中も氷と一緒に小皿において管理します。灼熱のインドでは、ワクチンの購入費用のほかに、輸送と保管にかかる費用、投与する人々や施設にも相応のコストがかかります。宗教、外国人や薬に対する頑迷固陋な偏見など投与に対する障害もあるため、ブースを訪れない家族のためには、地元協力者が一人当たり約二百世帯を受け持ち、戸別訪問して説得と投与を継続するとのこと。

さて、我々2770地区チームはおよそ一時間半、順に交代して計約150人に投与し、すっかり地元協力者とも打ち解けました。

終了後3人で食した本格カレーは、充実感のスパイスが効いていて美味に感じました。このNIDがテレビ大阪のクルーに密着取材されましたので、今後放映を視聴する機会もあると思います。

ご協力いただきました関係者の方々に、心より感謝するとともに、茲に厚くお礼申し上げます。紙幅の関係で、VTT調査報告は他日を期することになりますが、こちらも是非ご期待ください。



次年度地区チーム研修セミナーを開催

平成23年2月17日開催

次年度地区副幹事

次年度ガバナー月信担当 堀田 明 (春日部西)



2011～2012年度「地区チーム研修セミナー」が2月17日（木）、春日部市民文化会館で開催されました。カルヤン・パネルジーRI会長エレクトは、『こころの中を見つめよう 博愛を広げるために』のテーマを発信し、強い「家族」を築くこと、私たちが一番得意とすることを「継続」していくこと、変える必要があることは変える（「変化」）ということ、の3点を強調事項に掲げられました。三國ガバナー・エレクトはこのテーマに基づき地区運営及び地区活動方針を説明し、地区のモットーを「ロータリーに新風を！」として、大きな7つの目標を掲げた上で、奉仕・親睦・高潔性・リーダーシップ・多様性を中核の価値観とする基本はあくまでも継続しながら、良いと思ったことは失敗を恐れず変化



させていこう、と160余名の次年度地区役員に呼びかけられました。

昼食後は各担当諮問委員、部門委員長を中心に部門別の熱心な討議が行われ、その熱い想いは懇親会でも冷めることはありませんでした。

その後、夜の春日部の街で様々な部門が熱き議論を交わし続けたようです。

この地区チーム研修セミナーで初めて次年度地区役員が一堂に会し、地区チームとしての意識を高めることができました。

写真提供

次年度地区副幹事 栗原偉憲（杉戸中央）



第10回 ロータリーの友

ロータリーの友地区委員 瀧田 和雄（岩槻中央RC）

『ロータリーの友』の変遷

創刊まで

1952年（昭和27）4月25日、大阪で開催された地区大会で、（1952～53年度）から日本が二つの地区に分割されることが決定していました。それまでは一つの地区として活動しておりましたが、次年度からは東西に分かれるわけですから哀感入り混じった雰囲気であったそうです。そのような気持ちから、『二つの地区に分かれてからも連絡を密にするにはどうしたらよいか』を考える中で、共通な機関誌の発行が検討されるようになったそうです。

そして、第1回の準備会が大阪で開催されました。東京・横浜・京都・大阪・神戸の各クラブの代表が出席して『共通の雑誌』についての検討が行われました。しかし、東西でこうした雑誌に対するイメージにかなりの開きがあったようでこの第1回の会合では結論は出ませんでした。

第二回目の会合では議論が白熱。基本的な内容が次のように決まりました。

1：編集委員会は合議制とする。2：東京で発行する。3：定価を50円とするが、広告をとって100円の内容のある雑誌とする。4：名称は『ロータリーの友』とする。5：横書きとする。（縦書き、横書きで意見が分かれ、一般投票を実施した結果、2対1の割合で横書きが採用されることになった）。6：創刊は1953年1月号とする。

『ロータリーの友』の名前

第2回目の準備会で、投票によって遠藤健三（岐阜RC）氏提案の『ロータリーの友』に決定しました。この名称に対し、柏原孫左

衛門氏がおつまみの『ビールの友』からヒントを得たのではと発言、爆笑となったそうですが、遠藤氏自身は後日談で『主婦の友』からヒントを得たと述べられておられます。

広告は創刊号から

定価に関して東西が対立し、遠藤氏が仲裁案として50円案を出しました。雑誌の体裁としては活版案になりましたが、活版で作成すると原価が93円75銭かかり、予算が不足することが判っていました。遠藤氏は仲裁案を出すときから広告を取って補てんしなければならないと考えておられたようです。

定価100円は1962年12月号まで続き、その後1974年12月号まで110円が続きしました。しかし、印刷代諸物価の値上がりにより1975年1月号から定価200円になり現在に至っております。

現在でも『友』にとって広告は大事な収入源で、1975年以来の200円を維持してゆくためにも、この広告収入が一役かっております。

その後の『友』の変遷

1953年の創刊当初は、横組みでのスタートでしたが、その後、歌壇など横組では具合の悪い記事が出はじめ、これらを縦組みとしたので、縦組み、横組みが交ざった雑誌となりました。1972年1月から従来の形式を一変し、縦組みと横組みに分けた現在の姿になっています。1977年クラブ定款第10条（現14条）の改定に伴い、公式地域雑誌の規定が設けられ、『ロータリーの友』は、1980年7月号から公式地域雑誌（現、ロータリー地域雑）となりました。（ロータリーの友基礎知識より）

情報の泉である友の活用を

**連載****こんにちは、職業奉仕委員会です No.9**

職業奉仕委員長 川上孝次郎（藤RC）

前号より

それは、1939年の別府に於ける地区大会の決議となった。既に活動を開始していた日満連合委員会は、幹事の芝染太郎を、急遽同年のクリーブランド国際大会に派遣し、日満ロータリー組織の設置を決議するよう要請した。しかし、情勢は極めて不利で、その決議案は撤回されたが、日満連合委員会は、後日、R.I.理事会の配慮によって承認された。

しかし、これらのすべては徒労に終わった。ロータリーに関する世間の誤解はロータリーに対する攻撃に転じ、スパイ呼ばわりさえされる始末となった。新聞紙上でも、ロータリー解散すべしと論断された。

1940年8月14日の例会に於て、遂にクラブ解散の問題がとり上げられ、賛否両論が沸騰した。他のロータリークラブでも同様に議論は対立し、その内容が新聞記事となる不手際も出た。

日満連合委員会では、国家単位にロータリーを改組することを提案し、もしそれがR.I.に容れなければ、国際ロータリーから脱退する方針を定め、各クラブに通告した。しかし、時の動きは余りにも速く、世情の重圧は、既に支え切れないところまで来ていた。

9月11日、東京ロータリークラブは遂に解散した。創立者米山梅吉は、重い足を引きずるようにして壇上に立った。そして、奉仕の理想はあくまで堅持したいと、20年にわたったロータリー歴の最後の言葉を残したのであった。かくて、午後1時45分、会長中山龍次は、解散を告げる閉会の鐘を鳴らしたのであった。神戸クラブはこの日満連合会に出席していた岡崎忠雄からの入電によりこの決定を知り、翌9月5日の木曜日の例会において解散すると共に直ちに神

戸木曜会をそのままの形で組織した。

小泉会長はその豪快な性格とユーモラスな態度とによって、各方面の当局ともよく接触を保ち、ダンネル（独）、デルブルゴ（伊）の外人会員の自発的退会によってうまく妥協し、円滑に神戸クラブは推移していたのであったが、京都クラブが遂に二つに割れて解散し、大阪クラブもまた解散したと言うのでひたすら日満連合会の決定を待っていたのであった。

日満連合会に代る新団体の結成について神戸を代表して岡崎忠雄が発起人に指名されていたが、やがてその標準定款もでき、名称も「七曜倶楽部連合会」が良かろうと言うことになっていたが、日米開戦を目前にひかえ各地のクラブはそれどころでは無く、結局この七曜倶楽部連合会は文字通りの有名無実となってしまった。東京RCばかりでなく、他のクラブも同じような状況であったことがわかります。

日本のすべてのクラブが国際ロータリー（RI）を脱退したが、日本からロータリーの灯が消えてしまったのかといえば、決してそんなことはなかったのです。名称を変えて新クラブを発足したクラブは29あったようですが、その名称の多くが例会の曜日にちなんだものでした。そのほか、名古屋同心会、札幌職能奉仕会、横浜同人会のような名称も見られます。このような試練の時期を乗り越えて、戦後、日本のロータリークラブは次々にRI復帰を果たします。今、長引く不況や社会状況の変化によって、会員数は減少をし続け、ある意味で試練の時を迎えているといってもいいのかもしれません。この試練を乗り越えるために、戦時中のロータリアンたちに思いを馳せてみてください



連 載

第10回ロータリー情報ニュース

5 大奉仕部門について

長期計画・ロータリー情報委員長 鈴木 操（越谷RC）

クラブ奉仕 (Club Service)

ロータリーの第1奉仕部門 ロータリアンがクラブを円滑に機能させるための部門

活に常に奉仕の理想適用すること

職業奉仕 (Vocational Service)

ロータリーの第2奉仕部門 事業及び専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくこと

国際奉仕 (International Service)

ロータリーの第4奉仕部門 ロータリアンが国際理解・親善・平和を推進するために実施する部門

社会奉仕 (Community Service)

ロータリーの第3奉仕部門 ロータリアンすべてがその個人生活・事業生活及び社会生

新世代奉仕 (New Generation Service)

ロータリーの第5奉仕部門 2010年規定審議会でも新たに採用された奉仕部門・年齢30歳までの青少年すべてを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、より良い未来を確かなものとするために新世の生活能力を高める部門

文庫通信
(282号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

以下資料のご紹介を致します。

地区大会記念講演より

◎「洒落たいなかの食風景」小泉武夫 2010 10p (D.2830)

◎「フラガール誕生からスパリゾートへの道のり」斎藤一彦 [2010]9p (D.2550)

◎「試練が人を磨く」桑田真澄 2010 11p (D.2520)

◎「スポーツの世界、勝負の掟」山本浩 2010 2p (D.2690)

◎「人と自然との共生」C.W.ニコル 2010 4p (D.2690)

◎「未踏の地球内部を掘るー地球深部探査船「ちきゅう」の挑戦」平朝彦 2010 4p (D.2640)

◎「足元の宝物で地域再生を」月尾嘉男 2010 10p (D.2640)

[上記申込先:ロータリー文庫(コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15
黒龍芝公園ビル3F
TEL (03)3433-6456 FAX (03)3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時
休館=土・日・祝祭日



ロータリー財団

大口寄付 35223, 17\$
ベネファクター(21)



岩渕 均
(浦和)
平成22年12月30日

M・P・H・F(6)



山崎 耀子
(川口北東)
平成23年2月4日

M・P・H・F(5)



金本 栄鷲
(さいたま新都心)
平成23年3月8日

M・P・H・F(5)



川島 誠
(さいたま新都心)
平成23年3月8日

M・P・H・F(3)



丸山 温子
(岩槻)
平成23年2月24日

M・P・H・F(1)



川又 忠信
(大宮西)
平成23年2月28日

P・H・F



田中 康之
(大宮)
平成23年1月27日

ベネファクター



寺澤 銀三
(鴻巣水曜)
平成23年2月16日

ベネファクター



岡田 勇作
(吉川)
平成23年2月24日

米山奨学会

米山功労者マルチブル(8)



國分 元基
(川口北東)
平成23年3月7日

米山功労者マルチブル(7)



山形 照之
(岩槻東)
平成23年2月22日

米山功労者マルチブル(3)



岡田 栄一
(上尾西)
平成23年2月23日

米山功労者マルチブル(3)



長谷川 吉昭
(吉川)
平成23年2月24日

米山功労者マルチブル(2)



櫻井 義久
(大宮)
平成23年1月27日

米山功労者マルチブル(2)



山口 光男
(鴻巣水曜)
平成23年2月9日

新会員



今井 英治
(越谷北)
平成23年1月12日入会
(有)エコーサッシ建材
住宅リフォーム



納口 俊通
(川口中央)
平成22年2月1日入会
株式会社 ベルエール
ビジネスサービス 不動産管理



目 繁明
(幸手)
平成23年2月2日入会
株式会社 やまと薬品
薬剤師



池田 進
(大宮西)
平成23年2月21日入会
(株)中央光商事
家具販売・企画・施工 業



村川 和夫
(浦和)
平成23年2月25日入会
三和体育製販株式会社
体育器具製造販売



冷牟田 正見
(大宮西)
平成23年2月28日入会
(株)ジーエイチ・エス
建設 業



新城 盛幸
(大宮西)
平成23年2月28日入会
泰心商事(株)
電気製品販売 業



佐藤 卓
(川口南)
平成23年3月2日入会
医療法人社団 歯友会
歯科医師



高田 憲治
(大宮中央)
平成23年3月3日入会
(有)家づくり工房 Hou's
建設業



南 慎一郎
(大宮中央)
平成23年3月3日入会
(株)どん
飲食業



堺 博
(大宮西)
平成23年3月7日入会
(株)ライズ
飲食業



田口 修身
(大宮西)
平成23年3月7日入会
田口社会保険労務士事務所
社会保険労務士



瀧沢 努
(さいたま新都心)
平成23年3月7日入会
(株)タキザワ漢方薬
医薬品、化粧品製造



林田 俊彦
(さいたま新都心)
平成23年3月7日入会
インペリアル(株)
歯科技工士

訃報 ◆ 謹んでお悔やみ申し上げます。



鈴木清作 名誉会員
(浦和北)
平成23年3月16日
享年86歳

グループ	クラブ名	2010年 7月1日現在		当月末 会員数		増減	目標 新会員	通算 新会員	当月		通算 出席率 順位
		内女性		内女性					出席率	順位	
第一グループ	浦和	100	0	103	0	3	5	5	86.97	34	30
	浦和東	80	2	79	2	−1	6	2	90.08	23	10
	浦和南	33	0	32	0	−1	6	0	91.38	20	29
	浦和中	40	3	39	2	−1	3	1	89.39	24	13
	浦和ダイヤモンド	21	9	21	9	0	3	1	88.07	28	21
	第1グループ計	274	14	274	13	0	23	9	89.18		
第二グループ	浦和北	72	4	71	3	−1	10	3	96.08	2	3
	さいたま中央	48	2	48	2	0	3	2	78.65	58	51
	浦和西	12	1	17	2	5	5	5	75.41	67	47
	浦和北東	40	1	44	1	4	3	4	81.63	48	59
	さいたま新都心	38	0	39	0	1	2	1	94.59	5	7
	第2グループ計	210	8	219	8	9	23	15	85.27		
第三グループ	大宮	52	0	53	0	1	8	7	84.24	40	50
	大宮南	33	4	38	5	5	5	5	81.57	49	52
	大宮中央	49	0	48	0	−1	8	4	84.57	38	62
	大宮南東	7	2	8	2	1	3	1	78.10	61	67
	大宮シティ	55	6	59	5	4	8	6	86.02	35	34
	さいたま櫛	16	0	18	0	2	5	2	88.89	26	42
	第3グループ計	212	12	224	12	12	37	25	83.90		
第四グループ	大宮西	42	0	56	0	14	5	15	72.79	75	63
	岩槻	29	4	29	4	0	3	1	87.36	33	78
	大宮北	23	1	22	1	−1	5	1	98.59	1	17
	大宮南西	13	1	12	1	−1	5	0	75.00	68	77
	大宮東	36	0	36	0	0	5	3	94.39	6	6
	岩槻東	28	1	29	1	1	5	1	72.35	76	56
	大宮北東	18	2	17	2	−1	5	1	82.35	46	38
	岩槻中央	16	0	15	0	−1	4	0	78.33	59	44
	第4グループ計	205	9	216	9	11	37	22	82.65		
第五グループ	上尾	39	0	40	1	1	5	4	76.83	64	70
	鴻巣	30	0	29	0	−1	5	0	93.54	9	25
	桶川	24	0	24	0	0	5	0	76.72	66	72
	上尾西	42	0	44	0	2	5	2	85.21	37	15
	北本	7	0	8	0	1	3	1	78.13	60	49
	上尾東	20	0	19	0	−1	2	0	93.75	7	55
	上尾北	27	0	27	0	0	2	2	95.83	3	2
	鴻巣水曜	33	3	33	3	0	5	0	93.18	11	37
	桶川イブニング	15	1	17	1	2	2	2	80.85	52	75
	第5グループ計	237	4	241	5	4	34	11	86.00		
第六グループ	春日部	40	0	41	0	1	5	1	87.87	29	8
	杉戸	24	1	25	1	1	5	2	74.00	71	32
	春日部西	36	3	37	3	1	5	2	79.00	57	40
	庄和	20	0	19	0	−1	2	0	89.35	25	20
	春日部南	28	5	30	5	2	4	2	73.33	73	65
	春日部イブニング	21	1	21	1	0	5	0	84.52	39	27
	杉戸中央	24	0	25	0	1	3	2	78.00	62	68
	第6グループ計	193	10	198	10	5	29	9	80.87		

グループ	クラブ名	2010年 7月1日現在		当月末 会員数		増減	目標 新会員	通算 新会員	当月		通算 出席率 順位
		内女性		内女性					出席率	順位	
第七グループ	幸 手	42	1	42	2	0	5	2	83.92	41	35
	蓮 田	31	0	34	0	3	10	4	80.70	53	66
	久 喜 菖 蒲	56	3	56	3	0	5	0	83.32	43	45
	栗 橋	14	0	13	0	−1	2	0	81.66	47	61
	幸 手 中 央	22	1	24	1	2	5	2	72.92	74	48
	第7グループ計	165	5	169	6	4	27	8	80.50		
第八グループ	越 谷	81	1	83	2	2	20	7	83.53	42	11
	越 谷 南	46	2	52	3	6	5	7	71.25	77	64
	越 谷 北	52	0	53	0	1	5	2	92.50	15	28
	越 谷 東	47	6	48	6	1	3	5	92.68	14	1
	越 谷 中	15	1	14	1	−1	5	0	76.92	63	53
	第8グループ計	241	10	250	12	9	38	21	83.38		
第九グループ	草 加	21	2	19	2	−2	5	0	65.75	79	79
	ハ 潮	46	5	48	4	2	6	3	88.26	27	24
	草 加 南	10	1	10	1	0	5	0	75.00	68	71
	ハ潮イブニング	24	1	25	1	1	2	1	86.00	36	12
	草加イブニング	11	0	11	0	0	5	1	93.18	11	22
	ハ 潮 中 央	17	0	17	0	0	5	1	80.88	51	73
	草 加 中 央	21	0	24	0	3	2	3	92.70	13	33
	ハ 潮 シ テ ィ	9	0	9	0	0	3	0	75.00	68	60
	草 加 21	8	3	8	3	0	2	0	87.50	31	9
	第9グループ計	167	12	171	11	4	35	9	82.70		
第十グループ	吉 川	28	1	31	1	3	5	3	80.59	54	57
	三 郷	29	2	30	2	1	5	1	87.78	30	43
	三 郷 中 央	19	0	18	0	−1	5	0	93.42	10	41
	三郷ウェンズデー	20	2	20	2	0	5	0	93.75	7	14
	松 伏	12	3	12	3	0	5	1	87.50	31	31
	第10グループ計	108	8	111	8	3	25	5	88.61		
第十一グループ	川 口	83	11	84	11	1	8	3	73.41	72	74
	鳩 ケ 谷	27	0	27	0	0	5	1	92.26	16	23
	川 口 東	18	2	21	2	3	3	3	90.36	22	19
	川口・鳩ヶ谷武南	29	2	28	2	−1	3	0	69.80	78	76
	川口モーニング	26	0	27	1	1	5	2	91.67	19	16
	川 口 南	31	4	31	4	0	3	0	62.50	80	80
	鳩ヶ谷シティ	14	1	15	1	1	2	1	94.88	4	4
	第11グループ計	228	20	233	21	5	29	10	82.13		
第十二グループ	戸 田	51	5	54	5	3	3	4	76.80	65	54
	蕨	29	1	27	1	−2	5	0	92.15	17	18
	川 口 西	27	3	27	3	0	3	1	80.00	55	58
	戸 田 西	30	3	31	3	1	1	1	81.08	50	36
	川 口 北	36	2	37	2	1	5	1	90.79	21	26
	川 口 北 東	27	3	33	5	6	5	6	82.51	44	46
	川 口 中 央	13	1	13	1	0	3	1	91.98	18	5
	川口むさし野	20	1	21	1	1	3	1	79.76	56	69
	戸田イブニング	20	0	21	0	1	3	1	82.50	45	39
	第12グループ計	253	19	264	21	11	31	16	84.17		
	地 区 合 計	2493	131	2570	136	77	368	160	83.95		

「自分発見！高校生感動体験プログラム事業」について

1月31日埼玉県庁にて教育長より感謝状贈呈並びに知事表敬訪問を行いました。



井橋ガバナーが東日本大震災で避難された双葉町の町長を訪問



「訪問状況の要旨」

平成23年3月19日、午後2時半過ぎ、東日本大震災で津波及び原子力災害で避難された福島県双葉町町民が、町役場の機能ごとバス30台で約1500人がさいたま市のスーパーアリーナに集団で避難してきた。

井橋ガバナーは、震災に対し当地区ロータリーとして、どのような支援ができるかと熟慮していたところ、翌日の20日に、集団避難した双葉町の井戸川町長と会う機会を得たので、早速、中島地区幹事と同行し会うこととなった。

ガバナーは、町長とお会いし、震災の状況や今後の方向などを親身になって伺い、励ましの言葉と今後の支援について述べられました。

町長は、疲れ切った小さな体で「生き延びるだけで精いっぱい、今後の町民が心配」と話され、支援に対し感謝の言葉を述べられました。

当面、さいたま市の第1から第4グループのロータリークラブが、井戸川町長を直接の窓口として、見える形で支援することとなった。他のグループやクラブの方々等のご支援を期待しています。



(文責 第3グループガバナー補佐 野原 哲夫)

中国上海からの留学生、賀剣良さん（1999～2000年、世話クラブ：浦和北RC）からメールがありました。

こちらでは依然として毎日日本の被災状況を報道しています。私はテレビを見ないので、自分で中国、日本、海外のサイトから情報を取っています。



今回日本人が災害に向けて、冷静な対応及び辛抱強く、社会秩序がよいなどのことを中国のマスコミに大きく報道された。これが全人類の手本になるかと思えます。それを見た中国人は日本の精神を敬服しました。今回の件によって、中国人は日本人に対する見方が大きく変化しました。

普段個々の人に日本のことをいくら説明しても耳を傾けてくれる人が少ないですが、生々しい映像を見た人は今まで教科書に教えられたものではないと新たに認識しました。その面では私はよかったですと思います。

震災に対して中国の政府を始め、日本へ積極的に支援をしています。民間の各団体も募金や救済物資の寄付活動が全国的に展開しています。我が学友会も来週の26日に募金活動を行う予定です。

地球は一つ、日本は独りではない、日本と離れた所でもたくさんの人々が応援していると信じて、頑張っ
てね。早く平安の生活に戻るように祈っています。

ジェン